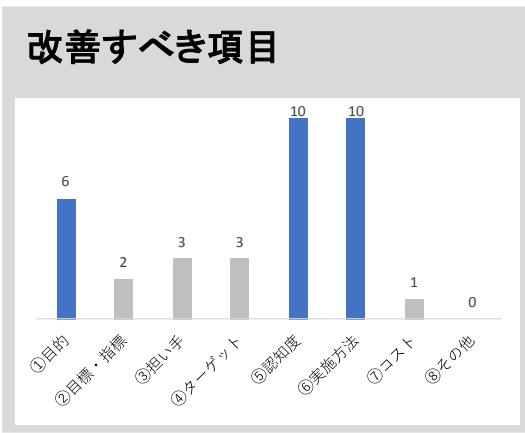


<b>事業の名称</b>	<b>生涯学習センター事業</b>	
<b>部名</b>	<b>生涯学習部</b>	<b>課名</b> <b>生涯学習センター</b>
<b>事業の目指すべき姿</b>	地域における生涯学習の拠点として、様々な講座の実施や学習に関する相談、情報提供等を通じて、市民一人一人が自分に合った学習活動を進めていけるよう支援し、豊かな生涯学習社会を実現する。	

<b>総合評価</b>	<b>改善すべき</b>
<b>評価結果</b>	

<b>各評価人の評価</b>	
よく取り組んでいる	0人
改善すべき	8人
大いに改善すべき	2人
廃止すべき	0人



**評価人の意見**

**(1) 認知度**  
生涯学習センターは、市民に学習機会を提供する市の大事な公共施設である。そのため、できるだけ幅広い世代、特に若い世代に、また、生涯学習センターから離れている地域の人にも活用、認識してもらえよう、周知を適切に行ってほしい。

- 施設の用途、利用方法等、施設についての周知が不足している。周知の際には、特に生涯学習センターを知っていれば活用するであろう市民に対し、生涯学習センターの魅力伝える必要がある。
- 生涯学習センターが町田駅周辺地域にしかないことを考慮し、生涯学習センターから離れている地域を意識した周知をする必要がある。
- 空き部屋の利用方法が伝わっていないため、効果的な周知を実施する必要がある。

**(2) 目的・実施方法**  
生涯学習センターは町田駅周辺に1か所、図書館は市内に8か所あることを踏まえ、地域の学習拠点である図書館との連携について、契機ととらえて検討してほしい。若者からもニーズがあることを認識し、誰にとっても利用しやすい生涯学習センターとしてほしい。

- 市民のニーズを分析したうえで、講座等のサービス内容を企画する必要がある。
- 各地域で生涯学習活動ができるよう、検討する必要がある。
- 生涯学習センターの施設(部屋)貸出しについて、市民が気軽に使えるように、利便性を向上させる必要がある。
- より多くの市民に納得して利用してもらえよう、講座受講料を見直す必要がある。

**(3) 担い手**  
将来を担う若者の声も大事にしながら、多様化するニーズに対応するため、行政だけではなく大学、市民、民間事業者など、みんなで担っていく生涯学習センターにしてほしい。

- サービスの充実や効率化を促進するために、民間活力の活用を検討する必要がある。
- より市民ニーズに沿ったサービスを提供するため、地域の大学や市民ボランティアなどと連携する必要がある。

**改善の基本的な考え方**

**(1) 認知度**  
より多くの市民に生涯学習の機会を提供するために、生涯学習センターの所在、サービス内容、利用方法について、媒体や発信内容・方法を工夫しながら、効果的に周知を行う。

**(2) 目的・実施方法**  
市民のニーズを十分に把握し、地域、年代等を問わず、利用しやすい生涯学習センターとする。  
図書館との連携を検討し、実施する。

**(3) 担い手**  
市民や民間事業者などと連携して、ニーズに合った、よりよい生涯学習センターとなるよう、それぞれが担える部分について検討し、実施する。

**事業所管課の改善に向けた具体的な取組**

**(1) 認知度**

- 引き続き市ホームページ、広報まちだを通じて生涯学習センターの周知を行うとともに、公共施設等でチラシを配布するほか、特に若い世代に向け、SNS(Twitter)を活用した情報発信を行う。
- 市ホームページに掲載している、生涯学習センターの施設(部屋)の貸出案内や利用方法の情報が不足しているため、記載内容を見直す。
- 市ホームページに掲載している『生涯学習NAVI』※の電子版について、より多くの人が目にする機会を増やすため、他団体が発行する情報誌にPR記事を掲載するなど、新たな取組みを検討し、実施する。  
※『生涯学習NAVI』: 市内や近隣で開催される講座・イベント情報を紹介する学習情報誌

**(2) 目的・実施方法**

- 図書館と連携した講座の実施を検討するほか、図書館に特設コーナーを設置するなど、各図書館と相互でのPR活動を実施する。
- 市民の学習ニーズや市民が課題と感じていることを直接講座に反映させるための、市民と職員と一緒に講座を作り上げる「講座づくり★まちチャレ」の講座数を増やす。
- 身近な場所での学習機会を増やすため、地区協議会※と連携し、その地域のニーズに適した講座を開催する。  
※地区協議会: 市内全10地区にある、地域課題の解決や、地域の魅力向上に主体性を持って取り組むネットワーク組織
- 生涯学習センター内のフリースペースである「団体活動コーナー」の設備、運用を見直し、個人学習者にも利用しやすい環境を整備する。

**(3) 担い手**

- 町田市5か年計画17-21に掲げられた行政経営改革プランに基づき、生涯学習センターの役割や事業内容を改めて検討したうえで、民間活力などの効率的、効果的な管理運営手法を検討し、方向性を決定する。
- 「生涯学習ボランティアバンク」※について、市内の保育園や幼稚園、町内会・自治会などに積極的に周知し、制度に登録している市民が活躍する場を増やす。  
※「生涯学習ボランティアバンク」: 自身の知識や経験、特技などを役立てたい市民等と、学習活動のサポートを必要としている市民等との橋渡しを行う制度

**目標**

指標	現状値(時点)	目標値(時点)
①Twitter発信回数(年間)	①45回(2020年3月)※2019年10月アカウント開設	①100回(2021年3月)
②ホームページの見直し	②—(2019年11月)	②実施(2020年3月)
③新規取組実施数(年間)	③3件(2020年3月)	③5件(2021年3月)

指標	現状値(時点)	目標値(時点)
①各図書館との相互PR件数(年間)	①—(2020年3月)	①9件(2021年3月)
②まちチャレで実施する講座数(年間)	②5講座(2020年3月)	②6講座(2021年3月)
③連携した地区協議会数(累計)	③1/10地区(2020年3月)	③3/10地区(2022年3月)
④環境整備	④—(2020年3月)	④実施(2021年3月)

指標	現状値(時点)	目標値(時点)
①あり方の見直し	①—(2020年3月)	①方針決定(2022年3月)
②生涯学習ボランティアバンクの利用件数(年間)	②21件(2020年3月)	②25件(2022年3月)

**結果**

実績値(時点)	取組内容

実績値(時点)	取組内容

実績値(時点)	取組内容